



エペソ人への手紙 1-6章 エペソ人への手紙の祈り

エペソ 1:-6:

2016.2.2

ver. 2008

1:-3: 知れ

4:-6: 歩め

ver. 2016

1: 知れ . 2: 救われた. 罪を離.

3: 知れ . 4:-6: 歩め

・ 1:3-14 子とされた. 御国に受けつて. 賛美! 奥義

・ 1:15-23 力を知る. 満ちる. (P-メン) [信仰. 望み]

・ 2:1-10 恵み - 良い行ないに歩め

・ 2:11-22 平和. - 家族. 住め.

・ 3:1-13 主の囚人/パウロ... 奥義.

・ 3:14-21 愛を知る. 満ちる. P-メン [愛]

・ 4:1- 主の囚人/パウロ... 歩みを進め...

6:23

神から平和と愛が兄弟に

6:24

神を愛する人に恵みが

エペソ人への手紙の分析をもう一度始めました。

2008年の時には、1章から3章までと、4章からというふうに2つに分けました。前半が知ること、後半がこう歩みなさい。歩みなさいというのが多いです。知ることと、行うことというふうに2つに分けて見ていました。

確かにそれも言えるかもしれないのですが、いちばんの違いが、3章の出だし「主の囚人である私はあなたがたにすすめます」というのが、3章の出だしと4章の出だしにあります。

「パウロがその奥義を宣べ伝える責任があるのです」という話は、何を言っているのだろうということで、1章から3章までのところを見て比べていきましたところ、祈りの1章15節から23節までのところは、「神の力、力」それで、「主を知ること」を言っているのです。似ているような話が、3章14節からのところに「こういうわけで父の前で祈ります」と言って祈りが書いてあるところにあります。

どちらも、満ちる、満ちるということがあるのですが、こちら(1:15-23)は「力を知る」、こちら(3:14-21)は「愛を知る」というふうになっているので、どう違うのかなということを見ていました。

それと、2章1章から10節、2章11節から22節。2章1章から10節は、死から救われた、罪禍と罪の中に死んでいた者が救われました」ということと(2章11節から22節は)、「遠くにいたのに、異邦人だったのに、近くに一緒に住むようになりました」ということで、恵みということばがこちら(2章1章から10節)に出ていますね。こちら(2章11節か

ら22節)は、平和、平和、平和。恵みと平和というのがあって、奥義、奥義ということなので、1,2章と、3章からと分けたらどうかということになっております。

エペソの一番最後の挨拶の文章が、ここの2つ(6:23,6:24)をまとめているところかなということです。知れ(1章)、こうなりました(2章)。知れ(3章)、こうしなさい(4-6章)ですね。この前半のほうのくくりが、「どうか父なる神と主イエスキリストから平安と信仰にともなう愛が兄弟の上に」「私たちの主イエスキリストを朽ちぬ愛をもって神を愛する人々の上に恵みが」。(6:23)平安が兄弟の上に、(6:24)恵みが愛する人に、ということ、愛が共通していて、平安と恵みという挨拶になっていると思います。

(1,2章)神様に選ばれて子どもにされて、恵みと平安が与えられること。(3章から)そして、神様に選ばれた責任を果たす、その歩みをしなさい。それは、「恵みと平安をもたらす者として、この地で歩むのですよ」ということをパウロは自分自身の責任と並行して励ますという全体の構造になっているのかなあと今は思っております。